

Close-Up 全力勝負の夏

部活動に励む皆さんにとって勝負の夏を迎えました。今年度も多くの子どもたちが全国の舞台で躍動。そのひたむきに頑張る姿はいつの時代も、私たちに勇気と感動を与えてくれます。

今回の巻頭ページでは「まちのニュース特別編」として、全国大会に出場した皆さんの声を紹介します。憧れ、緊張、不安……。さまざまな思いを胸に挑んだ大舞台での経験と、ここまで歩んできた努力の道のりに迫ります。



全国高等学校総合体育大会／男子
ホッケー



深井

琉聖さん

(伊予高2年) 富中

全国で感じた高い壁——
目指すは「走り勝つホッケー」

中学まではサッカー、高校でホッケーを始めました。部員は同じく高校まで未経験の選手が多く、4月に新チームになったときは女子チームにも負けていました。みんな「やばい」と思い、必死に練習しました。先生が求めたのは技術の前に、まず「走り込み」。ディフェンダーの僕は足を動かして失点を防ぐのが役割です。体力が付いてくると相手のカウンターにもしっかり戻って対応する、姿勢を低くしてボールを奪うといったきついプレーも、最後までやり抜けるようになってきました。全国大会では富山県の強豪校に完敗し、実力差を感じましたが、先生は「今まで見た中で一番伸びているチーム」と背中を押してくれます。練習を重ねて技術も身に付けながら、部が掲げる「最後まで走り続けて勝つホッケー」を目指して、走り続けます。



全国大会のコートに立つ深井さん(右)

全国高等学校総合体育大会／少林
寺拳法



中川

豊大さん

(松山工業高3年) 宿茂

自分を見つめ直すことの
大切さを教えてくれた大会

全国大会では6人で行う「団体演武」と、2人組の「組み演武」に出場しました。実は大会の約1カ月前、練習中の接触で肋骨を骨折。痛みが残るまま本番を迎えました。決勝進出は逃しましたが、「今できることをやるしかない」という気持ちで力を出し切りました。今年キャプテンとしてチームを引っ張る立場。演武を形にするため、動き方を言葉で伝えるのですが、想像以上に難しいです。体のつくりや使い方、感じ方がみんな違うからです。例えば技にスピードやキレを出すための、わずかな重心移動など、その見えない部分が差となります。それに気付くためには、弱みにも目を背けず、日々自分の動きと向き合うことが大切です。大会を通して少林寺拳法の難しさと奥深さを、改めて感じることができました。



2人で技を出し合う「組み演武」の披露

全国中学生フェンシング選手権大
会／男子サーブル



井上

幹雄さん

(五十崎中3年) 黒内坊

ハイレベルな環境で技を磨き、
憧れの先輩に追いつきたい

全国大会は2回目の出場です。前回は緊張でなかなか自分から攻撃できませんでした。今年最後の全中で「上位に行かない」というプレッシャーも——。目標のベスト8は果たせず悔しさは残りますが、昨年の反省を生かして、思い切った攻めはできたと思います。所属する愛媛フェンシングクラブでは高校生と一緒に練習します。全国で準優勝した織田優晴さんもその一人。駆け引きや攻め方をしっかり考えて競技に臨んでいて、僕にもその大切さを教えてくれました。コーチの指導も含めて、トップレベルの恵まれた練習環境です。練習を重ねて、自分の強みであるアタックの速さを磨き、技のバリエーションも増やしたいです。今後は憧れの先輩と同じ高校に進み、インターハイでベスト4に入るのが目標。少しでも追いつけるよう頑張ります。



練習で高校生と対戦する井上さん(左)

全国で渡り合えた自信を胸に、さらに上へ——

福島 新太さん(岡山県作陽学園高3年) =内子6=

岡山県の高校でサッカー部に所属しています。部員は約170人。毎年夏にはインターハイのメンバーを外れた選手から、フットサルチームを結成しています。フットサルはコートが狭く、ボールが来る2歩手前にはイメージしておかないと間に合いません。このスピード感がサッカーと違った面白さです。今年元日本代表選手が監督になり、チーム力が磨かれました。全国の決勝トーナメントの相手は、選手層が厚く強敵。それでも持ち味の守備を生かしたプレーが全国で通用したことは自信になりました。きっとサッカーにもこの経験が生きてくると思います。普段は部員たちと寮生活。内子に帰ると親や友人の存在など、改めてありがたみを感じます。周りに支えられて頑張っていることに感謝を忘れず、さらに上を目指したいです。

JFA第11回全日本U-18フットサル選手権
大会／ベスト8



気持ちを一つに、また必ず全国の舞台に

奥本 真里亜さん(大洲高1年) =宿茂=

中学生の時にカヌー部の練習を体験しました。先輩たちの格好いい姿を見て「絶対に入部する」と心に決めました。大会では4人乗りの艇の3番目。先頭の先輩の声を最後尾に伝え、全体の橋渡しをするポジションです。他県の選手は、4人乗りなのに1人で漕いでいるように息がぴったり。緊張さえも力に変えているようでした。大会後、私は1年生だけになったチームのキャプテンに。気にしすぎる性格が裏目に出ないよう、頑張り屋で気が合うハル(=加藤さん)と助け合ってチームをまとめたいです。上級生がいないハンデはあるけれど、息の合う同学年と一緒に乗れる強みもあります。「また絶対に全国の舞台に立つ」と揺るがない気持ちで、努力を重ねたいです。

「次がある」じゃない、強い気持ちで「今から努力」

加藤 はるさん(大洲高1年) =長田=

小さい時から川が好きで、夏は毎日のように近くの川で遊んでいました。初めての全国大会はすごい選手ばかり。「1位を取ります」と試合前に宣言する人、同じ1年生で全国2位に入る人もいて、全国で勝ち進む選手の気持ちの強さを感じた大会でした。新チームになって、また挑戦が始まります。大洲高校カヌー部のインターハイ連続入賞の歴史を途絶えさせないよう、「まだ来年がある」という甘えを捨て、今から頑張りたいです。まじめで話しやすいマリ(=奥本さん)は心配りができる人。練習時間を増やすため手際よく準備する工夫をしたり、練習で自分では気付けないことを伝えてくれたり、頼れる存在です。ライバルとしても互いに競い合い、高め合えたらと思います。

全国高等学校総合体育大会／女子カヌース
プリント・カヤックフォア(500m) 準決勝進出



上_元気いっぱいの笑顔を見せる奥本さん(右)と加藤さん 下_練習の様子。水面上でバランスを取りながら、一本一本確かめるように艇を漕ぎ進める2人



全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会
全日本高校生スポーツ射撃競技選手権大会

【内子高校ライフル射撃部】
学校対抗戦チーム・ライフル(以下、BR)男子/久保紀美德、安川勝生、安川東吾
BR少年男子立射40発/安川(勝)、安川(東)、畠岡慎一、久保
BR少年女子立射40発/大岡ゆめ
チーム・ピストル(以下、BP)少年男子立射40発/向井政棟、亀田和磨
BP少年女子立射40発/竹本有沙



全国高等学校総合体育大会/陸上競技

【内子高校陸上部】
男子4×100mリレー/松本珀、松井悠真、山下唯透、平井遥陽
男子200m/準決勝進出 松井悠真



安川 勝生さん
(内子高3年) 大洲市

**切磋琢磨してきた仲間たち
これからの活躍が楽しみ**

光線が出る銃的を狙い、30分間で40発撃ちます。真夏の会場で重い銃を持ち、集中を切らさずに立ち続けるのは大変。大会では競技中に停電するアクシデントがあり、驚きました。復旧に3時間以上かかりましたが、僕にとっては体力と集中力を取り戻す時間になりました。目標点数には届かなかったけれど、焦らず自分の力を出せたと思います。日々の練習は基本的に成功と失敗の繰り返し。課題を振り返りながら改善し、地道に技術を磨くことが結果につながります。特別なことはしていません。部員同士、互いに負けたくないという気持ちでレベルアップの原動力。1年生は成長が早く、女子もレベルが高いです。僕は今年で引退しますが、部には一緒に競い合ってきた弟、そして頼もしい後輩たちがいます。みんなの活躍を陰ながら応援したいです。



平井 遥陽さん
(内子高3年) 東沖

**喜びと緊張感を
仲間と味わえた最高の舞台**

リレーで昨年に続きアンカーを務めました。四国大会を6位通過で、なんとか勝ち取れたインターハイ。自分の状態は好調とはいえず不安もありましたが、「最後は思いっきり楽しもう」と挑みました。予選から強豪校と同じ組で、同じ4走には日本代表選手も。トップ選手と走れることに緊張とうれしさを覚え、走りでは1走の松本が強い走り、2走の松井、3走の山下が必死にバトンをつないでくれました。結果は予選敗退——ミスもあったし正直、もつと行けたと思います。日本記録も出たハイレベルな大会を4人で戦えたのは、大きな経験になりました。内子高陸上部の伝統の一つが、冬の猛練習。苦しさ乗り越えてきたからこそ、あの大舞台を経験できました。後輩たちも努力を重ね、僕らが見た景色を味わってほしいと願っています。

内子町は頑張る皆さんを応援しています

全国大会などの出場者に応援金などを交付します。出場が決まったら、開催前に申請してください。

《内子町がんばる子ども応援金》

- 対象者または団体
 - ▷個人 町内に住む小・中学生、高校生
 - ▷団体 町内の小・中学校、高等学校に所属する団体
- 応援金の額
 - ▷全国大会 個人1万円、団体10万円以内
 - ▷国際大会 個人3万円、団体30万円以内

《内子町スポーツ大会出場激励金》

- 対象者 町内に住む人(高校生以下を除く)
- 激励金の額
 - ▷全国大会 1万円
 - ▷国際大会 3万円

TEL 131707
【申込・問い合わせ】
内子町教育委員会 自治・学習課 生涯学習係
☎0893(44)2114

**経験を糧に来年こそ
3種目出場、そして表彰台へ**

4×100mリレーと200mの2種目に出場しました。それぞれに照準を合わせる難しさもある中、リレーで本番の雰囲気味わえたこと、ハイレベルな選手と競い合い刺激を受けたことは、後に控えるレースにもプラスになったと思います。200mでは気持ちを切り替えて自分なりの世界観で臨み、準決勝まで進むことができました。来年はファイナリストになって表彰台に上がるのが目標。100mも含めて3種目でインターハイの舞台に帰ってきたいです。

陸上は個人競技。練習ではチームメイトと支え合うことができるけれど、レース中は自分との戦いです。部員一人一人が尖っていく、それぞれ工夫して高めていくことが大事だと思います。まずは自分がその姿を見せて部を引っ張っていきけるよう、高い意識を持って日々を過ごしたいと思っています。



松井 悠真さん
(内子高2年) 内子15